

会長記者会見の概要

日 時：2024 年 10 月 11 日（金） 15 時 00 分～15 時 20 分

場 所：東京証券取引所ビル地下 1 階 兜倶楽部

会見者：須田事務局長

記者：

2024 年 9 月は設定、解約ともにこれまでの数字と比べると低水準であった。8 月の株価大暴落以降、いずれの数字も動きが静かになったという状況だろうか。

広報部長：

本会で集計しているデータと、当局等の公表データを照らし合わせてみると、資金動向に占める割合は積立投資より一括投資の割合が大きい。推測の域を出ないが、9 月の株式市場は相場の方向感が読みにくかったこと等から、一括投資を行う投資家の様子見姿勢が高まった結果、設定、解約ともに減少したものと考えている。

記者：

今の質疑に関連するが、10 月に入ってから資金動向はどうなっているか。

統計情報室長：

10 月初から足下までの速報ベースであるが、資金流出入状況は 9 月並みで推移している。

記者：

今後も様子見ムードが続くだろうか。もしくは 8 月の暴落やそれ以降の市況を受けて、投資マインドが変わったと言えるだろうか。

広報部長：

投資家の投資マインドが変わった、という状況では無いと考えている。最近はマーケットも落ち着きを取り戻しつつあり、この状況が続けば設定額も増えてくるのではないかと。

記者：

今年に入り設定額は平均で約 3.7 兆円、最大を記録した月で約 4.6 兆円、直近の 9 月で約 2.8 兆円、となっている。金融機関でどこが大きく減ったかという動向は把握されているか。

広報部長：

本協会では、販売会社ごとのデータは保有していないため、ご説明できかねる。

記者：

11 月から東証の現物取引時間が延伸するが、投信業界ではこの影響をどのように考えているか

伺いたい。

広報部長：

毎営業日、各投信委託会社で算出した基準価額データを、本会が集約して評価機関、情報ベンダ等へ配信している。東証の取引時間の延伸に関連した業務や配信時刻への影響が論点となっていたが、投信委託会社等と実務面の検討を重ねた結果、現行通り配信時刻を遅らせることなく運用可能であることの見通しは立っている。

記者：

協会から、評価機関等への配信時刻は現行通りということであるが、前段階の投信委託会社側の作業は現行比でタイトになり、所によっては自社 HP の基準価額更新タイミングなどに影響があるだろうか。

広報部長：

投信委託会社によって内情や対応は異なってくるため、協会としてコメントは差し控えたい。

以上